

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 東京都市大学
所属 都市生活学部
名前 末繁雄一
作成日 2021年8月3日

1. 責務

都市生活学部 都市生活学科および、大学院 環境情報学研究科 都市生活学専攻に所属し、都市計画・まちづくり分野を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は授業科目（学部：都市計画1・グラフィックデザイン演習、まちの観察、都市空間の演出、都市デジタルシミュレーション1・2・3、大学院：都市のアクションリサーチ）、学部3年のゼミ（プロジェクト演習1・2）、4年のゼミ（卒業研究）、および大学院生ゼミ（特別研究）での研究支援、学生のキャリア支援である。また、社会からの要請により産官学連携でのまちづくり活動案件があった場合は課外活動として有志の学生を募って参加している。

2. 理念

都市生活学部の使命は「都市生活者に価値を提供する人材を育成する」ことであると考えている。都市生活学の範疇は広いがここでは自身の専門である、「都市計画・まちづくり分野」において、この理念を実現するために、次の4つの個別理念を掲げている。

理念1：自分で考える力をつけさせる。（主体性）

→まちづくりには多くの人を巻き込みプロジェクトを進めていく必要がありそこに主体性は不可欠である。

理念2：学んだことを卒業後に自信を持って実務で発揮できる。（実践性）

→まちづくりは非常に実践的な活動であるため知識の習得だけでは不十分である。実践力を醸成することで、自信をもって学んだことを卒業後に実務で発揮できるようにする。

理念3：他者との協働で活躍できる。（協調性）

→まちづくりは多くのステークホルダーの協働によってしか実現しない。多様な主体と協働しそこで自身の力を発揮できる力を身に付けさせる。

理念4：世の中を変えるような発想力を身につける。（独創性）

→専門知識と協調性だけでは魅力的な都市は創造できない。新しい情報に常に敏感になるアンテナ力と人が思い付かないようなユニークな発想力や遊び心が重要である。

3. 方法

上記の理念を実現するために、学生がやる気を出し自分で考える力を養うこと、学んでいることの社会的価値を体感させ自信を持たせること、グループワークでの達成感を得させその成功体験から多様な主体の中で協調しながら物おじせず力を発揮できるようにすること、常に他者と異なる視点を持って独創的な発想力を身に付けさせる教育施策を展開している。具体的には次の教育活動の方針と方法を取り入れている。

・方針1：やる気を引き出し、自分で考える力を養う（→理念1）

学生がやる気を出し主体的に学ぶ環境づくりに努めている。

・方法1：課題テーマの設定そのものを課題の一部として、テーマを自分で考えさせるような課題設計を実施している（まちの観察 授業計画参照）。

・方法2：課題作成途中のフィードバックを頻繁に実施するとともに、リアクションペーパーを導入している授業では質問や相談にはすべてメールで返信するようにしている。多くの受講者の中で学生一人一人にきちんとケアする姿勢を明確に学生に示すことで、やる気を引き出すよう努めている。

・方針 2：取り組んでいる活動の実務とのつながりや社会的価値を体感させ自信を持たせる（→理念 2）
学生にとって今取り組んでいることが何につながるのかということを常に意識させるように努めている。

・方法 1：実地視察の積極的導入と視察先での外部実務者レクチャーを展開している（プロジェクト演習授業計画参照）。

・方法 2：課題講評は教員だけでなく実務家などのゲストを招いている（プロジェクト演習授業計画参照）。

・方法 3：課題成果は授業内だけでなく学外での発表の場を多く提供している。

・方法 4：研究室 OBOG に講演してもらうことで学生時代の活動がどのように仕事に活かしているか（遊びも仕事に役立っていることも含め）を語ってもらうなどの取り組みを展開している。

・方針 3：グループワークでの達成感を醸成し自信をつけさせ不公平感も除去する（→理念 3）

グループワークは可能な限り積極的に導入している。グループワークでは他者との意見・スケジュール等の調整が必要なり、時に不真面目なメンバー、自身への負荷の集中など様々な問題が発生するが、これこそが社会人になって直面する事柄である。学生のモチベーションを維持し社会で活躍できる人材を育成するために次のような施策を展開している。

・方法 1：グループでの成果を成績に反映させる際は成果物の出来栄評価だけではなく、各自で申告させたグループ内の他者のチーム内貢献度評価を加味して傾斜配点している。これにより頑張ったものが報われるという安心感と、自身も貢献しないと評価されないという危機感を持たせることで、各自の主体性と協調性が増進する。

・方針 4：関心領域を拡大させ世の中に対するアンテナを敏感にする（→理念 4）

都市計画分野の専門科目を深く学修して知識を深めただけでは魅力的な都市を創造することはできない。他者と異なる視点や発想力が必要であることを常に学生に説いている。それを実践させるために次のような施策を展開している。

方法 1：授業冒頭に授業内容と関係のある話からあまりない話まで含めて、話題のニュースを紹介している。その分野は都市だけでなく、アート・エンターテインメント・ファッション・音楽などの都市文化、都市サービスやビジネスなど多岐にわたる。「関心のなかったものに関心をもつ」とモットーに学生の関心領域を少しでも広げるよう努めている（プロジェクト演習授業計画参照）。

方法 2：3年生のゼミでは、まちづくりとの関係は必ずしも深くない分野の一流の専門家（例：クリエイティブディレクター、報道キャスター、写真家、グラフィックデザイナーなど）をゲストに招き、学生を対象にワークショップをしてもらっている。その場を通して、自分が気づかなかった自分の長所に気づき、新しい分野への関心を持つきっかけを提供している（プロジェクト演習授業計画参照）。

4. 成果

・授業評価アンケート結果から東京都市大学ベストレクチャー賞を受賞した（2017年・まちの観察 →都市大広報参照）。

・地域と連携した実践的なまちづくり教育と PBL の導入に対して、東京都市大学優秀教育賞を受賞した（2019年 →都市大広報参照）。

・大学戦略経費・教育改革推進プログラムに採択された（2018年・地域コミュニティと PBL →教育年

報参照)。

- ・大学戦略経費・教育改革推進プログラムに採択された(2019年・大学院教育のPBL推進 →教育年報参照)。
- ・実践的まちづくり教育のための地域との連携協定締結を主導した(自由が丘ジェイ・スピリット →地域連携センター資料参照)。
- ・指導学生が学会で受賞した(日本建築学会 若手優秀発表賞 受賞 →日本建築学会資料参照)。

5. 目標

短期的目標：

これまで、一貫して地域社会と協働しながら実践的なまちづくりPBL教育プログラムを実践してきたが、今後はこの教育施策を大学院教育に拡大させ、高度専門職人材の育成に貢献したい。また、大学院入学者を3倍に押し上げたい。そのためには内部進学だけでなく、社会人大学院生の積極的な獲得が必要であり、社会人大学院生にとって魅力的な大学院教育プログラムの構築に貢献したい。これらの施策を概ね5年以内程度で実現させたい。

長期的目標：

都市生活学ならではの(ハードとソフトを包含した)の都市プランナーを育成する。

【添付資料】

- ・プロジェクト演習 授業計画(方針2・方針4関連)
- ・都市大広報(2017年 ベストレクチャー賞受賞)
- ・都市大広報(2019年 優秀教育賞受賞)
- ・教育年報(2018年 大学戦略経費・教育改革推進プログラム採択)
- ・教育年報(2019年 大学戦略経費・教育改革推進プログラム採択)
- ・地域連携センター資料(実践的まちづくり教育のための地域との連携協定締結)
- ・日本建築学会資料(日本建築学会 若手優秀発表賞 受賞)